

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103805
法人名	医療法人 福井整形外科・麻酔科
事業所名	グループホーム ふくい
所在地	松山市高井町795-1
自己評価作成日	平成22年1月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

母体である、医療法人福井整形外科・麻酔科と日常的に連携を図っており、健康面では些細なことでもすぐに相談し、早めの対応が取れるようになっている。出来ていることが継続されるようにリハビリにも積極的に取り組んでいる。また、日常生活の中で、利用者様と職員が共に生きていく生活の場となるように日々コミュニケーションを取るようになっている。毎日笑顔を保ち、心穏やかに楽しく生活出来るように一人一人ではなく、みんな一つにまとまって介護に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

職員が、町内の清掃活動や盆踊りの練習等に参加することにより、地域との関係が深まって来ている。昨年の秋に行われた事業所での「ふくいバザー」には、地域にポスターを貼ってお知らせし、多くの方に参加をいただいた。バザーでは、利用者が作った手作りの小物を販売したり、代表者である医師がスープから手作りされたラーメンを振舞われた。ご近所の方からは、必要な道具をお借りしたり、駐車場を開放して下さる等の協力をいただいた。調査訪問時、ご近所の方が季節のお花を持って来てくださった。
代表者である医師の往診があり、いざという時は24時間いつでも対応できる体制となっている。月に1度歯科の往診があり、希望者はブラッシングや口腔ケアの指導、義歯の調整等をしていただいている。調査訪問時、歯科の往診があり、利用者はご自分の歯ブラシとうがいコップ持参で受診されていた。月1回皮膚科の往診があり、希望者は診察を受けておられる。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム ふくい

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)

氏名 栗林 愛

評価完了日 平成 22 年 1 月 23 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)	
			ミーティングでは、必ず確認し、仕事につなげている。 もっとわかりやすい理念に変えても良いかもしれない。	
			(外部評価)	
			事業所では、4つの基本理念を掲げておられ、理念のひとつに「社会とのつながりを大切にしよう」と挙げておられ、地域との交流を大切にされた取り組みをすすめておられる。	管理者は、「理念とは」というところから、職員とともにもう一度考えてみたいと話されていた。事業所の理念を事業所にかかわるすべての人達で共有して、実践に向けて取り組みをすすめていかれてほしい。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)	
			町内のイベントにも参加し、近所の方々にグループホームを知っていただく機会を設けている。 グループホームのイベント(バザー)にも近所の方々にきて頂いている。	
			(外部評価)	
			職員が、町内の清掃活動や盆踊りの練習等に参加することにより、地域との関係が深まって来ている。昨年の秋に行われた事業所での「ふくいバザー」には、地域にポスターを貼ってお知らせし、多くの方に参加をいただいた。バザーでは、利用者が作った手作りの小物を販売したり、代表者である医師がスープから手作りされたラーメンを振舞われた。ご近所の方からは、必要な道具をお借りしたり、駐車場を開放して下さる等の協力をいただいた。調査訪問時、ご近所の方が季節のお花を持って来てくださった。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			運営推進会議の中で、事業所の内容や利用者の事を伝えていっているが、貢献には至っていないと感じる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域行事やホームの行事を伝え合うことで、地域との つながりが持てるようになってきている。具体的な内 容の提示により、避難訓練への参加や実際に抱えてい る問題を話し合える機会が持てた。</p> <p>(外部評価)</p> <p>会議を2ヶ月に1回開催されている。会議では、外部評 価についての説明や報告をされたり、利用者と職員、 民生委員、市の担当者と喫茶店に出かけて、楽しい雰 囲気の中でお話をされたこともある。町内会長の方か らは、「協力できることはどんどん声をかけてくださ い」と力強い言葉をいただいている。</p>	<p>今後さらに、地域の方やご家族の参加を増やして会議 を充実させていかれてはどうだろうか。又、ご意見が 出やすいように、例えば、事業所で提供しているサー ビスの具体を体験してもらおう等、さらに事業所のこ とを知ってもらったり、意見をうかがえるような会議に ついてもすすめていかれてほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の状況などを踏まえ、手続きなど連絡を密に取り、 連携は取れていると思う。</p> <p>(外部評価)</p> <p>生活保護受給者の生活について、市の生活福祉課の方 と相談しながら支援されている。運営推進会議では、 市の担当者から、災害対策について「近隣の方々との 密な連絡が大切」等、アドバイスをいただいた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>夜間帯の玄関の施錠(防犯の為)以外は、いつでも出入 り出来る環境にある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>気ままに出かける利用者には、ご本人が納得するまで 職員が同行するようにされている。居室において、 ベッドから一人で起き上がり、転倒の危険がある利用 者については、足元にセンサーマットを敷いて、職員 が利用者の動きが分かるようになっていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) もっと学ぶ機会を設け学ぶ必要がある。 入浴や着替えなどで全身観察を行っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員全体では、学ぶ機会は設けられていない。 成年後見制度を活用している方はおられる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時にはゆっくりと時間が持てるようにしている。 契約書に沿って説明して行く中で、具体的な例を挙げながら説明を行ったり、途中で疑問点を尋ねるようにしている。質問に答えながら納得した上で契約を締結している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者からの要望は日々のケアの中で聞く事が出来る。家族などの意見はなかなか表出し難い。来荘時に、話をしている中で時折要望を聞くことはあるが、もっと聞き出す努力が必要だと思う。	
			(外部評価) 毎月発行される「ふくだより」に利用者の表情がわかる写真を多く載せてご家族に送付されている。又、利用者個々の職員担当者が書いた体調や暮らしぶりを手紙にして一緒に同封されている。年2回、春のお花見と秋のバザーには、ご家族にも案内して、約半数のご家族が参加され、一緒に楽しまれている。	今後、外部評価結果とともにお送りする家族アンケートの集計表等も活用して、ご家族の要望等の把握に努めていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日常的に聞いてくれ、月一回のミーティングでみんなの意見を聞き決めるようにしている。	
			(外部評価) 管理者は、利用者の日々のケアの取り組みについて、職員の意見を聞きながらすすめておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 気にしてくれていて、スタッフからの話も聞いてくれ把握してくれていると思う。勤務状況を把握し、個々の努力は十分に感じているが、給与水準の検討は困難である。労働時間などは、家庭の事情なども考慮し、職員で協力して、多少の融通が出来るようにしている。	
			(外部評価)	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) それぞれに必要なと思う研修の声掛けをし、参加している。ケアで不安な事などは、月一回のミーティングを利用し勉強会をしている。	
			(外部評価)	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修や研修などの参加。 同業者と交流する機会を持っている。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 出来る限り、利用を開始する前に情報を収集したり、ホームへ見学に来てもらったりして、安心できる環境作りが早く出来るように心掛けている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前や契約時にゆっくりと話す時間を設け、今後の生活の意向などを含めて、出来る限り不安が少ないように心掛けている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) すぐに入居できる現状ではないので、申込や利用の相談時に他サービスの利用など今できる事の支援を行っている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 基本理念にも掲げているように、共に生きようという心掛けを日々、実践出来るように関係作りを行っている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方一人一人ときちんと情報交換を行い連携が取れていると思う。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの場所との関係はなかなか取るのが難しい。 (外部評価) 利用者から「お墓参りに行きたい」というご希望があり、入居前に利用していた介護サービスの担当者の方に場所等を教えてもらいながら、お墓参りに行くことを支援された。月に1度、ご家族宅へ外泊されたり、外食を楽しまれる利用者もおられる。又、近々お孫さんの結婚式への出席を楽しみにされている利用者もおられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事の時の配置など工夫して孤立する事はないように思う。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了しても、季節の挨拶の交換をしたり、相談に応じれるような関係が保たれるように心掛けており、数名、現在でもお便りを下さるご家族がいらっしゃいます。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日のコミュニケーションの中で聞き得た情報を元に出来る限りの事は出来ていると思う。 (外部評価) 職員が、利用者に関わる中から思いや希望を知り得て、「24時間生活変化シート」(日々の介護記録)の中に記入されている。	利用者個々が、最期までその人らしく暮らし続けられるように支援するためにも、個々のアセスメントの充実が期待される。利用者一人ひとりの思いや意向を探るための職員の利用者への関わり方等についても工夫されてほしい。得た情報を蓄積して、介護計画につなげていくような取り組みが期待される。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 今までの記録や、利用者本人、家族との会話を通して把握に努めることが出来ている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日、変わりつつある利用者の方の心身状態をとらえながらそれに応じた支援をする事は難しいものです。より観察をする事に重点をおき、これからも現状の把握をしていく必要があります。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 毎日ケアチェックをしながら、それぞれ利用者の方たちにあった介護計画というものを考えなければならない。そのためには、グループでの話し合いが可能となるミーティングの時間、また利用者の方の家族のご来荘時に話し合いをする事が可能となると思います。</p> <p>(外部評価) 月1回、利用者それぞれの担当職員がモニタリングを行い、3ヶ月に1度、計画の見直しをされている。ご家族の方に意見がいただけるよう、介護計画書に記入欄を設け送付されておられるが、ご意見や要望を出していただけるようなことは少ないようである。</p>	<p>ご本人がより良く暮らすためにも、アセスメントの充実からご本人主体の計画の作成に取り組んでいかれてほしい。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 記録の記入は、その時その時の様子を書き記すため、非常に大切な書類であると思います。利用者さんの思いなども書き記し、ニーズが何であるかという事も考えながら介護計画に役立てる必要があると思います。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) その都度ニーズにこたえられるように、いろいろな可能性を含めて話し合いが出来るように心掛けている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域資源の活用にはいたっていない。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価) 通院時など利用者さんが体調が悪いとの訴えがあつたりした時には、リハビリは中止し、診察への変更になったりすることもある。そのような時は、診察に変更するという事を病院のほうに連絡し、利用者さん本人にも説明し、分かって頂くようにしている。</p> <p>(外部評価) 代表者である医師の往診があり、いざという時は24時間いつでも対応できる体制となっている。月に1度歯科の往診があり、希望者はブラッシングや口腔ケアの指導、義歯の調整等をしていただいている。調査訪問時、歯科の往診があり、利用者のご自分の歯ブラシと、うがいコップ持参で受診されていた。月1回皮膚科の往診があり、希望者は診察を受けておられる。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 他職種との連携はとても大事な事である。利用者さんがお薬の事や、事故等でヒヤリハット、インシデント等の発生した場合、すぐに医療関係者への報告をし指示を頂くようにする。何か利用者さんがいつもと違う様子だった場合も報告しいつでも医療が受けられる体制を作るようにしている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 環境が変わって不安にならないようにグループホームでの日々の様子を詳しく伝え安心していただくようにしています。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 医療機関の指示、また家族の方の思いを受け入れてスタッフ一同グループホームでの最善のケアに心掛けています。</p> <p>(外部評価) 入居時に「日常の健康管理と重度化した場合における対応及び看取りに係る指針」について説明され、最期まで事業所で支援できることをお話されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の応急手当など、医師による指示・マニュアルを基にしていますが、瞬時の実践力はとても不安に思っています。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 運営推進会議で不安に感じる点・改善点など意見交換をしてグループホームで生活している利用者の方を理解していただくと共に地域の方々と少しでも多くの接点・コミュニケーションをこれからも重ねていきたいと思えます。防災訓練は、定期的を実施して災害時に備えたいです。 (外部評価) 年2回、避難訓練を行っておられる。地域の消防団長からは「何かあったらすぐ行くけんの」と言っていた。毎年一度、地域の3グループホームが持ち回りで実施する地域の方との合同避難訓練には、職員が参加された。	事業所内の様子や避難経路等を地域の方達に知ってもらったり、事業所で行う避難訓練に地域の方々に参加を働きかける等、地域の方達と相互に協力し合えるような体制を作っていかれてはどうか。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の方を大切に思い、その方の気持ちによりそった言葉かけが出来るよう日々対応している。職員の中には、時々どうだろう?と思うような言葉を使っている事があるが、みんなで注意し合うようにしている。 (外部評価) 管理者は、ミーティング時に「利用者は人生の先輩であり、基本的に尊重し、敬わなければならない。」と職員にお話されている。又、「ご利用者がやりたいことは、やりたい時に行えるよう支援していきたい」と話された。	職員の利用者への対応について、事業所では「馴れ合いになってきているのではないか」と感じておられる。全職員で話し合う機会や運営推進会議、ご家族等のご意見を聞くような機会も作ってみてはどうか。又、居室のポータブルトイレやパット等の介護用品の整理についても、個々のプライバシーを守る支援という点から点検されてみてほしい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一つ一つの行動を取る際にどうしたいか、どう思うか聞くようにしている。何かがしたいと言われてもすぐに対応出来ない事がある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 活動したり、休んだり、その方のペースで一日を過ごして頂くようにしている。外出などは職員の都合を優先してしまっている。希望にそえるようもっと努力していきたい。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 月に一回散髪屋さんが来られ、身だしなみも日々整えている。外出時には、おしゃれができるように声かけ、介助を行っている。女性の方には、時折化粧ができるようにしてあげたい。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食べたいものがあれば、出来るだけ献立に取り入れている。準備・片付けを全て一緒に行う事は出来ず、時折出来る簡単な作業をしてもらっている。 昼食は、職員も一緒に食べて、会話しながら楽しく食べるようにしている。 (外部評価) 食材にはCOOPの宅配も利用されており、時には利用者と一緒に注文のカタログを見ながら選ばれることもある。ユニット毎に週2回昼食にお弁当を取る日と週2回夕食に配食サービスを利用されている。1階ではその日の献立が示してあり、パンがお好きな方も多いようで、朝食にパン・昼食にサンドウィッチという時もある。午後からは、夕食の準備で卵の殻むきをされる利用者の姿がうかがえた。	利用者にとって食事は楽しみの一つであり、さらに利用者一人ひとりの好みや状態等も踏まえて、支援に工夫を重ねていかれてほしい。事業所の食事支援のあり方等について、運営推進会議やご家族のご意見等もお聞きするような機会を作ってみてはどうだろうか。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者さんの体の状態、便の状態他により、食べる量水分量の調節をし、記入することで、スタッフがその日の量を一日トータルで把握出来ている。 食事は、きざみや固いものは小さくする。介助にて摂取して頂く。その日の状態にあったトロミづけ他により栄養・水分摂取して頂けるよう努めている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 朝・夕食後は、口腔ケア出来ているが、昼食後は、限られた人の口腔ケアしか出来ていないので気をつけるようにしたい。 舌の汚れは、スタッフで情報を共有しケアしている。ご自分での口腔ケアが難しい入居者さんには、ご本人にして頂いた後スタッフが支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 入居者さんに声かけをしながら、少し腰を動かされる、落ち着きがなくなった他の行動を見て排泄の支援をしている。	
			(外部評価) 利用者個々の排泄の状態の把握に努められ、トイレで排泄できるよう誘導されている。夜間は、睡眠を妨げないようにオムツを使用される方もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便の状態により、食事の量の調節、消化の良い物など気を付けている。水分も量を記入し、スタッフが共有して便秘予防に努めている。スタッフの人数にもよるが、個々に合った運動を声かけする余裕がない日がある。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴されるまでが、気のりしない入居者さんには、スタッフ何人かによる声かけ・タイミングを見はからっているが、日数がたつと少し強引に入って頂くときもある。通院他、スタッフの人数で入浴の時間が限られる日もあるが、その中で入居者さんの希望、体の状態を見て入浴して頂いている。	
			(外部評価) 職員が見守り入浴される方は、ご希望の時間をお聞きして支援されている。好みのシャンプーや洗顔料を使用して入浴を楽しまれる方もある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 支援出来ていると思います。前夜不眠だったり、疲れぎみだったり、足の痛みがある人などその状況に応じて利用者さんと話し合いながら自室で気持ちよく休んで頂くようにしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>(自己評価) 理解までは出来ていないが、時間がある時などに、お薬ファイルなどを見、薬の名前、用法、用量などに目を通すようにしている。 服薬時は、間違いのないようスタッフ二人で確認しあいながら飲んで頂いている。 薬の量が増えたり、変わった時などは、変化のチェックを行っている。</p>	
48		<p>役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 単調な生活になりがちですが、お誕生会や、外食、散歩などで気分転換を図り、またスタッフがギターを弾きみんなで童謡を歌ったりと利用者さんの笑顔が多くみられるよう支援している。</p>	
49	18	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>(自己評価) スタッフ不足の日などは、なかなか一人一人その日の希望にすることは出来ませんが、出来るだけ本人の意思を尊重しながら前向きに取り組んでいると思います。 また、地区の方、民生委員さんの方々との昼食会もたまに行っています。</p> <p>(外部評価) 職員は、散歩が日課になっている方や薬局やコンビニに買い物に行かれる方に付き添われたり、近所の魚屋さんに利用者さんと買出しに行かれています。月に1~2回ユニット毎に外食に出かけられており、調査訪問の前日は、1階のユニットの方達でうどんを食べに出かけられたようだ。介護度重度の利用者は、天気の良い日に庭に出て日向ぼっこをされている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>(自己評価) お金の管理は、責任者がしており、欲しい物があれば本人とよく話し合い、必要と認められるとお金を出してもらい、スタッフと一緒に買い物に行く事もあるが、なかなか時間が取れない場合が多い。</p>	
51		<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>(自己評価) 本人の希望にて、家族、お友達に電話することはあるが、取次ぎは職員がしている。 手紙の書ける方には、家族に今の状態など気のすむ時に書いて頂き本人と共にポストへ又は職員がポストへ持っていく。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
				リビングにおいて季節に合った飾り付けなど利用者さんと一緒にしています。
			(外部評価)	
			居間では、ご近所の方からいただいた季節のお花を利用者が協力して花瓶に生けておられる様子がうかがえた。新聞広告を見られたり、編み物をされている利用者の姿もあった。観葉植物や蘭等の鉢植えが置かれていたり、壁には利用者手作りのパッチワーク作品が飾られていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
				利用者さん同士でテレビを観たり、新聞折りをしたり、一人になりたい時は、居室にて過ごして頂く。
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
				居室に家族の写真を張ったり、テレビ、ラジオ等ご本人が操作出来る所へ置いている。
			(外部評価)	
			ラジオを聞かれる方は、調査訪問時には、お気に入りの歌番組が始まるのを心待ちにされていた。ラジオ番組表を利用者の見やすいように拡大コピーされており、ご本人が聞きたい番組に印を付けておられた。ご家族の写真を飾ったり、好みの整髪剤や化粧品を使っている方や電気かみそりで、ご自分がひげを剃る方もある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
				掃除や配膳、お買物など職員と一緒に出来る事からやっている。